

# 波音

なみおと



清水海岸だより 第11号(H22.6)



## 第11号の内容

- 特集：『砂浜の回復状況について』
- 地域活動の紹介②：東海大学海洋学部環境サークルE.C.O

PHOTO：窪田 敏

## 三保の自然を題材にした絵画シリーズ(9)

わだ えいさく  
和田英作

### 『写生帖〈三保の富士〉』

明治44年(1911年)

富士を描いた《写生帖》は、和田の足跡を示すもので、スケッチには日付・時刻・写生場所、天候などが克明に記されている。和田の富士への飽くなき執着ぶりと現場写生の徹底ぶりを窺わせる貴重な資料である。  
(静岡県立美術館「富士山の絵画」より抜粋)

静岡県立美術館収蔵品



# 特集 『砂浜の回復状況について』

静岡県では、離岸堤の建設や養浜事業などの効果によって砂浜が回復し海岸線が拡大している実態を、航空写真の撮影や現地での測量調査などから調べています。

## 砂浜回復域が清水三保方面へ進行中

安倍川では、昭和43年以降、河道からの砂利採取が規制されたため、安倍川から静岡海岸に砂や礫が供給されるようになり、近年では、安倍川に近い海岸から砂浜の回復が見られます。さらに、砂浜の回復域は清水海岸の清水三保方面へと進行していることが確認されています。

### 静岡海岸から清水海岸にかけての砂浜回復状況



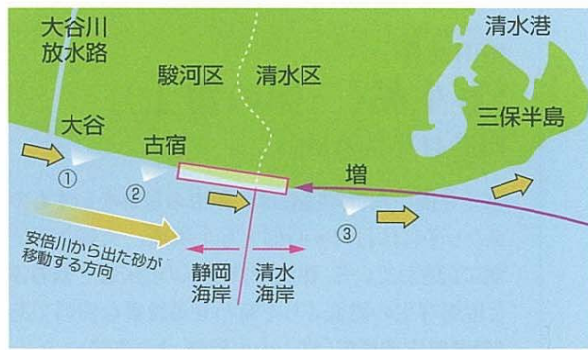
③ 離岸堤に砂がまだ到達していない(清水海岸増地区)



② 離岸堤に砂が付きかけている(静岡海岸古宿地区)



① 離岸堤まで砂浜が広がっている(静岡海岸大谷地区)



注：写真は平成22年1月撮影

## 静岡・清水海岸の海岸線拡大の状況

静岡海岸では、昭和54年より整備を開始した離岸堤の効果などによって、海岸線の前進範囲が清水海岸方向に年間約250mのペースで拡大してきましたが、近年は鈍化傾向にあります。具体的には、平成15年から平成19年の4年間に約600m(約150m/年)回復が進行していましたが、最近の3年間では約150m(約50m/年)と鈍化しています。今後も航空写真や測量調査を実施し、回復状況に留意していきます。

### 砂浜の回復の変遷(航空写真)



凡例 → 砂の回復域  
静岡海岸 清水海岸

### 【東海大学 海洋学部 環境サークル“E.C.O.”】

- 設立：2004年（平成16年）
- 会員：9人
- 代表：小平 明寛
- 顧問：田中 博通（東海大学 海洋学部 海洋建設工学科教授）

当サークルは、東海大学海洋学部に在学している学生で構成された大学生サークルです。普段は「身近なところから何かできることを探していこう」をモットーに、様々な環境活動を行っています。代表的な活動として、毎月第3日曜日に三保海岸の清掃活動を行っています。その他、子供クラブや他大学の環境サークルとの交流、地域団体や企業との協働にも力を入れています。

#### ● 活動内容：

「三保海岸清掃」、「子供達の環境教育」、「他団体主催イベントへの参加・協力」、「他大学との交流」、「学園祭での展示活動」また、主に静岡市内の各域を一括清掃する漂着物調査清掃イベント「すんぷ☆エコアクション」も例年9月に開催予定です。今年度で5年目となる当イベントも、様々な企業・団体と協働し、より大きな規模で実施します。



地元住民を交えた三保海岸清掃の様子



子供達への環境教育の様子

Shimizu Kaigan Dayori NAMIOTO お問い合わせ、ご意見はこちらまで



New Public Engineering for SHIZUOKA

いっしょに、未来の地域づくり。

静岡県交通基盤部

静岡県静岡土木事務所

静岡市駿河区有明町2-20 (〒422-8031)

TEL 054-286-9156 FAX 054-286-9100

URL <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-850/>

E-mail [shizudo-kouji2@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:shizudo-kouji2@pref.shizuoka.lg.jp)

